

8月15日 終戦の日を前に

海軍墓地に眠る英霊に届け、「海ゆかば」「長迫の丘」大熱唱

100人のNEWS

No. 26

NPO法人教育再生地方議員百人と市民の会

理事長 大阪市議員 辻 淳子

【発行・編集責任者】

事務局長 増木重夫

大阪府吹田市古江台

2-10-13

TEL 090-3710-4815

FAX 06-6835-0974

<http://www1.ocn.ne.jp/~h100prs/>

観光温泉宴会 旅行は卒業だ！

議員の後援会旅行といえば、温泉・宴会、そしてカラオケでドンちゃん騒ぎが定番だ。でももう卒業しよう。意義ある旅行を。

温泉・宴会の旅行は楽しい。特に選挙で苦勞した後の後援会での旅行ほど楽しいものは無い。特に今回はぶっちぎりの1位当選。心も弾む。今年は何処へ行こうか。選挙が終わるや否や、毎晩議論(?)。山中温泉、城崎温泉。毎年そうしてきた。しかし、それでいいのだろうか。なぜか心からの納得に掛ける。

そこで不肖増木が、広島県呉市にある「海軍墓地」の話を進言させてもらった。近所には「大和ミュージアム」があり、江田島がある。歴史散歩には事欠かない。

嫁には弱いが一日本一の硬派(?)を自認する森脇保仁兵庫県議会議員、早速話に乗ってきた。そして5月20日、下見に呉行き。帰るやいなや後援会の幹事会を召集し旅行案を開陳。親分が親分なら子分も子分、全員賛成。硬派議員の後援会だから当たり前か。そして日程は、終戦記念日前の7月24、25日に決まった。バス2台、百人(少々四捨五入)で訪呉し、全員で「海ゆかば」を合唱しよう。我々が、日々元気に暮らしているのは、先の対戦で亡くなられた、何ものにも変えがたい尊い犠牲があったからこそ。その御霊に対し、皆でお礼を言おう。このように決まった。

話が前後するが、この海軍墓地には、主に大東亜戦争戦死者約13万余柱の御霊が合祀されている。艦毎に慰霊碑があり、搭乗者名簿が添えられている。毎年秋分の日には広島県知事、呉市長等が出席し慰霊祭が行なわれ、今年9月23日に行なわれる。

いざ広島に向け出発。初日午後、「大和ミュージアム」を見学。この施設はあくまでも、思想的なものではなく、「日本の工業技術(特に船舶)は世界一」を表現するために作った。と出迎えてくれた岡崎源太郎呉市議会議員は力説。しかし、かなり大東亜戦争の資料などが展示されていて...。ご覧になられた方も多いと思うが、総排水量7万余トン、長さ263メートルの「大和」の十分の一の模型は圧巻。そして「大和ミュージアム」の前に3年ほど前にできた

「鉄のくじら館」という潜水艦の実物を見学できる施設を見学。数年前まで実働していた潜水艦を陸揚げして展示していて、内部を見学できる。潜水艦の性能は外壁の厚さで決まると聞く。何とか聞き出そうとしたがダメだった。

二日目、午前中江田島の海上自衛隊第一術科学校、教育参考館を見学。ここには東郷元帥の遺髪や、英霊の遺書などが展示されている。

午後、今回の主目的である、呉市長迫公園にある「海軍墓地」を訪問。熱かった。森脇議員令夫人が「戦艦大和」の碑に献花。そして岡崎源太郎呉市議会議員や今回全ての案内をしていたら、呉観光ボランティア会長山元利成氏(元海上自衛隊)にご参加いただき、さらに望外なことに地元元お嬢さん達の合唱隊の先導で「海行かば」「長迫の丘(慰霊歌)」を全員で大熱唱。感謝の誠を捧げた。

ゆかりのある人の集団慰霊は欠くことが無い。しかし、一般の人がこのような形で手を合わせるのには、(少々オーバー)墓地始まって以来ではないだろうか。そして帰りのバスでは「男たちの大和」を上映という徹底したマニアック振り。常に英霊への感謝の念を忘れない森脇議員だからこそ実現できた旅行だった...。ちよっと誉めすぎ!

心に誠を求める楽しさはドンちゃん騒ぎの楽しさ以上の充実感がある。これが真の「自分探しの旅」だと思う。戦後65年、高度経済成長や、バブルは遠い昔。さらには東日本大震災。関東では半月ほど前、宍倉清蔵千葉市議会議員の後援会旅行は「靖国神社参拝」と聞く。各議員におかれては、このような「心の旅」も一度検討されてはいかがでしょうか。

追悼歌「長迫の丘」

潮路はるかに昇る陽に 旭日の旗なびかせて
祖国を護りし勇士が 静かに眠る長迫の
丘に平和の鐘が鳴る

ゆるぎなき世の礎は 七つの洋に散った華
勲績ええる石碑に またたく星は長迫の
空に平和の鐘が鳴る

精気あふれる日本の 未来を拓く同胞の
御霊安けと祈りつつ 友人集う長迫の
森に平和の鐘が鳴る



後援会旅行は市民の海軍墓地

森脇保仁後援会